

1 令和5年度の取組目標と方策

(1) 学校経営

町工スクールミッションを実現するための組織体制を整備する。

- ①町工スクールミッションを踏まえ、取り組むべき課題を整理し、町工ビジョンとしてまとめ、全教職員と共有する。(町工ビジョンの作成)
- ②企画調整会議を文字通り、企画の検討調整の場とする。
- ③「TOKYO P-TECH」による IT 人材育成のためのプログラムの計画的・継続的な指導の推進のため、運営組織の分掌化を検討する。
- ④経営企画室は、スクールミッションに基づき、予算・経理・施設・人事等の観点から経営企画室事務処理方針を定め業務を遂行する。
- ⑤職員個々の状況を踏まえた人材育成を組織的に行う。
- ⑥ライフ・ワーク・バランスの高い次元での実現に向け、職場内の文化を醸成し、組織的な体制を構築する。

(2) 学習指導

多様な学びのスタイルを検討し、様々な支援ツール・サービスを活用し、町工学びのスタイルを確立する。

- ①観点別学習状況の評価に基づく、多様で多面的な学習評価を展開し、生徒の学習意欲を高め、課題解決型の学力の伸長を図る。
- ②変化する情報社会の状況を踏まえ、新たな学習スタイルを検討する。
- ③C4th、定期考査採点・分析システム、オンライン学習教材の活用を促進し、学びの質の向上を図る。
- ④工業情報数理の科目指導内容については、情報社会を見据えた能力の育成の観点から充実を図る。
また、教科「情報」との関連から大学受験も見据えた内容とする。
- ⑤PBL を活用した学びを展開する。
- ⑥教科「人間と社会」を生活指導とも関連付けながら計画的に実施する。
- ⑦大学受験を希望する生徒に対し補習・講習を実施する。

(3) 進路指導

社会で必要となるスキルの育成と「生徒の希望進路の実現」を果たす。

- ①学年集会、面談週間、個人面談などを活用し、粘り強い進路指導を継続する。
- ②教員による企業訪問等により企業のニーズを把握した上で、3年間で1つのストーリーとして進路行事（講話、ガイダンス等）を充実させる。
- ③企業講話、ものづくり講話等で積極的に外部人材を活用し、インターンシップの効果的な実施につなげるなど、生徒の職業観を醸成する。
- ④これからの社会で必要とされる、資質能力を、日々の学習活動や特別活動、キャリア教育等の機会を活用し、意図的・計画的に育成する。
- ⑤町工グローバル I T エンジニア育成プログラムを TOKYO P-TECH 事業と統合するとともに、グローバル感覚の育成事業を展開し、その成果を全校生徒と共有する。
- ⑥資格取得指導を推進し、ジュニアマイスターの取得を目指す。

(4) 学校生活と健康づくり 生徒が校則の意義を考え理解を深める指導を展開する。人権課題に対する教職員の共通理解を図り、生徒指導の在り方について検討と改善を進める。 ①身だしなみや言葉遣いに関する指導や挨拶ができる指導を継続して実施する。 ②特別支援教育の視点をふまえて、個々の生徒に適切な指導方法で対応する。 ③日々の生徒理解、面談やアンケートの活用を通して、いじめの早期発見に努め、いじめの解消にむけ組織的に対応する。 ④生徒指導部・学校いじめ対策委員会・特別支援教育委員会を中心として、全教職員と保護者が連携し、生徒個々のわずかな変化にも早期に対応し、生徒に自らの人生を充実させる指導を推進し、生命に関わる事故の発生を0とする。 ⑤あいさつ100%を推進する。 ⑥校歌指導の充実を図り、みんなで校歌を歌えるようにする。
(5) 特別活動 生徒が諸活動に取り組む中で、主体性や積極性、他を思いやる心を育て、体力・気力を養い、困難な状況にあっても「くじけぬ心」を育てる。 ①新入生に部活動参加を奨励し、2年生以降の加入率の向上を図る。 ②自主的・自律的な学校づくりに向けて、生徒会の自立的活動を推進し活性化を図る。 ③部活動等の特別活動に限らず、体罰及び不適切な指導が行われることのないように、全教職員への周知及び全生徒への指導を徹底し、体罰や不適切な指導が行われることのない指導体制を整える。 ④文化祭や体育祭などの全校で取り組む学校行事について、生徒会及び各行事の実行委員会等と担当教員とのコミュニケーションを活性化し、意見を集約・精選して学校全体の取り組みとしての一層の充実を図る。 ⑤読書活動を推進する読書会などの取組を計画・実施する。 ⑥市選挙管理委員会等と連携した体験活動により主権者教育を計画的に進める。
(6) 広報活動と地域連携 ホームページやSNSを活用し、中学生やその保護者に本校の魅力を発信し募集対策を強化する。また、地域行事等への参加を推進する。 ①情報の即時発信のためにホームページを適時の更新・充実を行う。 ②中学校への出前授業、本校での体験学習を実施し、本校の特色ある教育内容を紹介する。 ③授業公開、学校見学会、学校説明会、個別相談会を適切な時期で実施する。 ④全教職員による学校説明会などを運営し、募集活動を充実する。 ⑤地域産業を中心とする企業との連携を推進する。 ⑥学校開放事業を推進するため近隣中学校や地域との連携により開かれた学校づくりを実施する。

2 成果と課題

(1) 校務の組織化

校内意思決定は、全て企画調整会議内で行い決定過程の透明化を図る。また、職員会議で決定した事項を分掌内で必ず周知するよう徹底し確認を行う。

【成果】

今年度、職員会議のペーパーレス化を図り、TAIMS パソコンを用いて常時資料の閲覧確認ができるようにし、業務の自由度を高めた。その結果ライフ・ワーク・バランスの向上も図ることができた。

【課題】

- ・企画調整会議で決定した事項の再検討が発生しており、会議のあり方を改善する。
- ・業務量に偏りがあり、バランスの取れた職務分担を実現する。

(2) 本校を理解した生徒の獲得

総合情報科の特色を生かした4系列のものづくり教室や1日体験入学を充実させるとともに、広報を徹底して多くの中学生に参加してもらい、工業・情報教育に関心のある応募者を増やす。

【数値目標】

中進対倍率 1.0倍

推薦に基づく選抜 1.5倍

学力検査に基づく選抜 1.0倍

【成果】

	目標	昨年	今年
・中進対	1.0	0.79	0.85
・推薦	1.5	1.30	1.35
・一次	1.0	0.82	1.03

・中進対 1.0 0.79 0.85

・推薦 1.5 1.30 1.35

・一次 1.0 0.82 1.03

・一次学力検査において、目標であった1.0倍を達成し、定員とする入学者を決定した。

【課題】

- ・中学生やその保護者、中学校の教職員や塾関係者など幅広く本校の教育内容の理解促進を図り、引き続き一次学力検査の倍率の確保に努める。
- ・中進対や推薦に基づく選抜における倍率の向上を図る。

(3) 充実したわかる授業づくり

学力スタンダード、技能スタンダード等、各科・系列の学習到達目標達成のため、教科会・系列会議・総合情報科会を計画的に実施して教科マネジメントを機能させる。ICTを活用したわかる授業を推進するとともに、観点別の学習状況に基づく評価を適切に実施、学習意欲の向上を図る。

【数値目標】

コンペ等の入賞者数 10名以上

資格・検定等合格者数 150名以上

【成果】

・コンペ等の入賞者数 19名

・資格・検定等合格者数 252名

【課題】

- ・資格・検定等合格者数のさらなる増加を図る。
- ・一人一台端末の使用率の向上を図る。
- ・観点別学習状況による評価の在り方について、観点別の評価項目の充実を図る。

(4) 生徒の希望進路の実現

多様な生徒の希望進路に対応する。大学入試一般受験への対応。系列を生かした就職指導を充実する。粘り強い指導を全校的に継続し、教員による企業訪問やインターンシップの充実を図る。資格の取得を推進しジュニアマイスターを目指す。

【数値目標】

希望就職率 100%

大学希望進学率 100%

【成果】

・希望就職率 98.4%

・大学希望進学率 100%

【課題】

- ・生徒一人ひとりの多様な進路実現を目指して、就職希望者の就職決定率を100%とする。
- ・ジュニアマイスターの取得を目指した指導体制を構築する。

(5) 規範意識の向上、授業規律の確保等生活指導の充実

「身に付けさせる規律・規範」「授業規律」等、教職員の一致した指導を全教職員体制で実践する。日常的な生徒の様子把握により特別指導を出さない。

【数値目標】

中途退学者率 2%以下

部活動加入率 80%以上

自転車通学ヘルメット着用率 50%以上

【成果】

・中途退学者率 1.36%

・部活動加入率 78%

・自転車通学ヘルメット着用率 10%以上

【課題】

- ・自転車通学ヘルメット着用率向上を図る。
- ・特別支援教育に対する理解促進を図り、障害がある生徒の支援を適切に実施する。